

## 視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた検討の報告

静岡国道事務所 正会員 篠田宗純  
 静岡国道事務所 太田聡  
 静岡国道事務所 服部汐莉

### 1. はじめに

国土交通省では、平成6年に制定されたハートビル法等に基づき、「道の駅」や交通結節点のトイレなどの公共施設のバリアフリー化を推進してきた。そのような中、障害者基本法（昭和45年法律第84号）の基本的理念である「障害者に対する差別の禁止」を具体化するため、障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号）が制定された。これにより、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮を的確に実施するための環境整備が急務となっている。特に、公的トイレについては、視覚障害者から「男女の区別ができない」、「便器までの案内がない」などの不自由を感じるとの声があったため、重点的に検討を進めることとした。

本稿では、国土交通省静岡国道事務所が実施した、視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた検討を紹介し、バリアフリーに対する理解の促進や取り組みの普及の一助となることを目的とする。

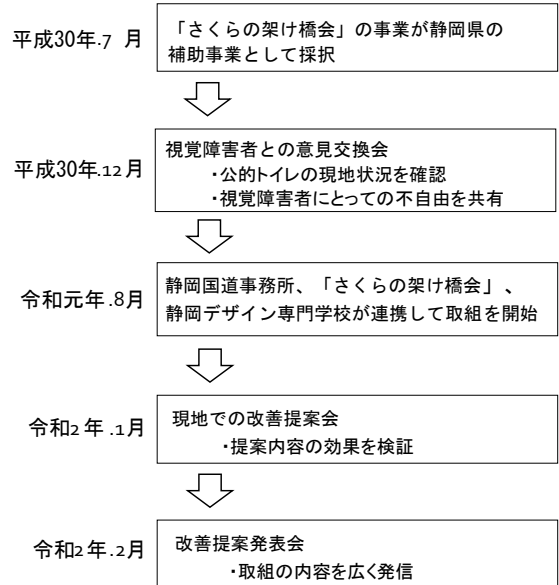


図-1 取り組みの経緯

### 2. 地域の団体・若者と連携した取組体制

静岡国道事務所では、公的トイレの改善検討を実施するにあたり、実際に障害者が感じている不自由を具体的に抽出する必要があったことから、静岡地域で障害者の活動支援を行っている「さくらの架け橋会」と連携し、検討を進めることとした。また、視覚障害者の不自由を解決する方法について、既存のアイデア以外からも求めることを目的に、施設や設備のデザインを専攻する静岡デザイン専門学校の学生にも協力いただいた。取り組みの経緯を図-1に示す。

また、静岡県では障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律の制定に伴い、平成29年12月に合理的配慮理解促進事業費補助金交付要綱（静岡県告示第834号）を定めている。今回の取り組みは合理的配慮理解促進事業の一環であり、静岡県は補助事業により「さくらの架け橋会」を支援している。

### 3. 公的トイレ改善に向けた取り組み内容

本項では、公的トイレの改善に向けた検討の具体的な取り組みについて述べる。

#### (1) 視覚障害者との意見交換会（平成30年12月26日（水）静岡国道事務所会議室にて実施）

まずは、視覚障害者がトイレを利用する際に課題となるポイントを整理するため、視覚障害者を交えて公的トイレの現地確認を実施した。その結果、トイレ入り口において男女の判別ができない、トイレ内に入れても便器

までの案内がない、便器も和式・洋式の区別ができないことなどが課題として確認された。

#### (2) 現地での改善提案会（令和2年1月7日（火）静岡駅北口地下駐車場トイレにて実施）

現地で確認した課題を踏まえ、公的トイレに対する改善案を検討し、効果検証を実施した。なお、改善案は学生が主体となって検討した内容であり、概要はそれぞれ以下のとおりである。

##### a) 壁に敷く道プロジェクト

DIY用異素材シールを活用したユニバーサルデザインにより、視覚障害者を案内誘導する提案である。

##### b) アイ・コンマーク活動プロジェクト

視覚障害者がトイレを利用する際に不自由を感じている内容を明記したステッカーの設置により、他者からの補助を促す提案である。

##### c) 格安アイデアプロジェクト

値段の安い日用品の活用により、自宅トイレ等でも手軽に設置できる案内誘導の提案である。

改善提案会では、上記の提案内容を実際に公的トイレに設置し、その効果を視覚障害者に体験・検証いただいた。その結果、「案内誘導の設置位置や高さによっては案内がわかりにくい」、「案内はトイレ個室や小便器まで連続した案内としてほしい」、「説明がなければ案内



図-2 提案概要

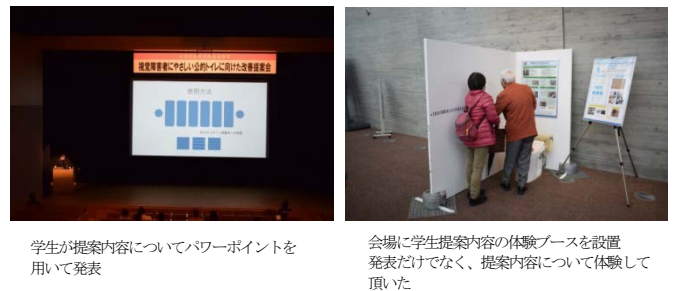
誘導であることがわからなかったため、案内誘導の規格化・統一化など、案内誘導であることを認知できるようにしていただきたい」などの意見をいただいた。

(3) 改善提案発表会（令和2年2月16日（日）静岡市清水文化会館マリナートにて実施）

視覚障害者にやさしい公的トイレの普及に向けて情報を広く発信するため、静岡市清水文化会館マリナートにおいて公的トイレにの改善提案発表会を実施した。発表会では、学生による提案内容の発表、提案概要パネルおよび仮設トイレを活用した体験ブースの設置、静岡国道事務所が事務所内のトイレに設置している立体ピクトの事例紹介により、社会的障壁の除去に関する必要かつ合理的な配慮に対する理解の促進を図った。発表会の様子を図-3に示す。また、発表会では参加者に対し、アンケート調査を実施しており、参加者からは「提案内容はいずれも低コストで実現性の高いものなので、早期の導入を期待する」、「ユニバーサルデザインは広く広まる事が重要なので、主要メーカーに働きかけ、共通のデザインを作成するなど、展開のための仕組みづくりがあるとよい」などの意見をいただいた。アンケート調査結果を図-4に示す。

4. おわりに

今後の取組としては、今回検討した改善提案について、耐久性やデザインの見直し等を検討したうえで、静岡県内の「道の駅」等における公的トイレへの試験的な設置を実施する。その後、その効果を検証し、課題等を整理することで、誰もが使いやすい公的トイレの普及に資する。一方で、新型コロナウイルス感染予防が喫緊の課題となる中で、今回改善提案のような接触型の案内誘導は衛生面で不安が残る。このため、抗菌作用のある素材の



学生が提案内容についてパワーポイントを用いて発表

会場に学生提案内容の体験ブースを設置発表だけでなく、提案内容について体験してもらった

図-3 発表会の様子

1. 提案内容に関する意見
  - ・どれもすぐ実用出来そうなものばかりでよかった。
  - ・どの提案も低コストで導入できる点が非常によかった。
2. 今後の展開に関する意見
  - ・ユニバーサルデザインは広く広まる事が大切なので、そのための仕掛けも考えていく必要がある。
  - ・トイレの水を流すレバーがユニバーサルデザインではないので、主要メーカーに働きかけ共通デザインをつくらせてはどうか。それを各家庭に導入すれば全てのトイレのデザインの共通化、ひいては全世界の共通化となるのではないかと。

図-4 発表会参加者によるアンケート結果（一部抜粋）

使用など衛生面への配慮についても検討を進めていく。本稿では、静岡国道事務所が実施した視覚障害者にやさしい公的トイレに向けた取り組みを紹介した。今回の取り組みは地元の福祉団体および学生とともに検討を進めた事例であり、取り組みの進め方においても他の参考となることを期待する。また、今回の取り組みが公共施設に対するバリアフリー、ユニバーサルデザインのあり方を見直すきっかけとなり、公共施設の設置・改修時における新たな基準・文化の醸成につながると幸いである。